

オーディオの総合月刊誌 ステレオ

Stereo

2016

6

June

音楽之友社創立75周年

75th
Anniversary

特集

アナログレコードを聴きたい

- ここから始める!レコード再生
~プレーヤー&カートリッジ編
- フォノケーブル聴き比べ

私の研究ノート/低音再生その2

アキュフェーズ頂上決戦「A-70対P-7300」

新垣隆&小池ストリングスのハイレゾ音源とコンサート

ブラックキャットケーブルを訪ねる

SL-1200GAE



Technics
DIRECT DRIVE TURNTABLE SYSTEM SL-1200GAE

Limited Edition
PRODUCT LIMITED No. 1000

RESET
PITCH ADJ.
-8
-6
-4
-2
0
2
4
6
8

テクニクスSL・1200GAE イベントレポート

■ 生形三郎

去る4月12日、東京タワー大展望台クラブ333ステージにて、「レコード再発見プロジェクト」発足イベントとして、アナログプレーヤーのテクニクス、カートリッジのナガオカ、レコードのプレスをする東洋化成の3社によるイベントが行なわれた。「メイド・イン・ジャパン」にこだわることの3社は、今後、オーディオの情報発信を行ない、より多くの人にアナログの良さ、オーディオの良さを広めるべく結成されたとのことだ。

SL・1200GAEについて

本誌の表紙も飾っている話題のテクニクスSL・1200GAEはブルーレイプレーヤーで培ったモーター制御技術に応用した新規開発のコアレス・ダイレクト・ドライブで、過去のDDモーターに比べ、コギングによる回転ムラを排除することに成功。さらにアームは計量マグネシウムを採用という、全く新しいレコードプレーヤーが登場した。SL・1200GAEの音は今

までのレコードプレーヤーとは異なる新たな次元の音を再生するだろう。これだけの内容を持ちながら33万円という価格もハイC/P比と言わざるを得ない。当然ながら予約開始30分で国内限定台数300台に達したそうだ。今後はSL・1200Gとして秋発売予定とのこと。GAEとの大きな違いは内部素材をαGELから特殊シリコンラバーに変更される。こちらも楽しみだ。

豪華ゲスト陣によるトークイベント

アリス・沙良・オットさん、和田博巳さん、藤本國彦さんの3名がそれぞれSL・1200GAEでレコードの再生を交えたアナログの良さについて語った。

1番手のアリス・沙良・オットさんは自身の演奏したレコードを再生し、音楽をアナログで聴く良さや、日本製のプロダクトに対する信頼感を語った。続く和田博巳さんは、グレイトフル・デッドや自身が演奏するバンド、はち

みつばいのレコードを当時のエピソードを交えながら再生。中でも印象的だったのは、はちみつばいの「センチメンタル通り」。はっぴいえんどと比較して語られることも多い日本のロック名盤として名高い本作だが、1973年当時の本作がこんなにも良い録音でレコードに収められていることに驚いた。自身が演奏した音源を、当時の思い出を添えむように聴く和田さんの姿には心打たれた。

最後に日本を代表するビートルズ研究者、藤本國彦さんによる、オリジナル盤、モノラル、「サージエントペパー」、「カム・トゥゲザザー」、「ストロベリーフィールズフォーエバー」を再生。当時のホンモノの音を伝える説得力がオリジナル盤の凄さであり、レコードが未だに支持される最大の理由だと改めて感した。

レコードはなぜこれほどまでに人を魅了するのか。なぜあんなに細い音溝にこれほどまでに音楽が詰まっているのか。予測不能な無限の可能性を秘めている。

今後「レコード再発見プロジェクト」は全国各地でイベントを開催予定している。機会があれば足を運ばれてみてはいかがだろうか。

ここから始める！レコード再生

■ 生形三郎

2万円以下のカートリッジ一斉試聴

レコード再生の楽しみかたは無限にあるけど、その中でもとりわけカートリッジの交換が一番楽しい。気分によって、LPによってお気に入りのカートリッジに交換して音楽を楽しむ。これはまさにレコード再生ならではの醍醐味。というわけで今回はお手頃な価格帯のカートリッジをたくさん集めて聴いてみました。どのような個性を聴かせてくれるのか!? カートリッジを交換して自分好みの音を見つけよう！



写真 高橋保一

今、MM型カートリッジが熱い

レコード再生を楽しむ場合、大きく分けて、MM型（VM型、IM型など）の高出力型）もしくはMC型のどちらかのカートリッジを使って行なうことになる。両者の違いは、音溝をトレースする際の発電方式にあるが、MM型は出力電圧が高いため、MC型に比べ信号を手軽に扱うことができるのが特長だ。現行カートリッジのグレードや価格もミドルクラスまでが主流で、構造上、針先や可動部のみが交換ができるので、経済的。これらの理由から、MM型は入門用とが、廉価品として語られることが多いのが一般的だ。しかしながら、オーディオにおいて



「アナログを聴くことは、好きなフィッシャーを飲むこととどこか似ている」と語るアリス・沙良・オットさん



はちみつばい「センチメンタル通り」を再生する和田博巳さん



藤本國彦さんはビートルズ、オリジナル盤を再生



生形三郎氏

は高性能や高単価が必ずしも最高・最適かといえはそうとも限らないのが面白いところ。音楽ジャンルをはじめ、カートリッジ本体の音色、試聴環境など様々な要素によっては、MM型の方が好まれる場合も多々あるだろう。

MM型のメリット

原理的に見ても、大きな昇圧が必要なMC型は、その増幅過程による音質への影響も大きくなるので、その過程も重要となる。一方で出力の高いMM型は、音の鮮鋭感をシンプルな信号経路で楽しめるという点で有利と

アナログレコードの魅力は、音の質感と臨場感にある。デジタル音源とは異なる、有機的な響きと、演奏のニュアンスが伝わる。特にジャズやロック、ソウルミュージックなど、ダイナミックレンジが広い音楽では、その違いが顕著に現れる。



また、アナログレコードは、音の「空気感」や「空間感」を再現する能力に優れている。ステレオ効果も、デジタル音源よりも自然で、まるでライブ会場にいるような感覚が味わえる。これは、アナログレコードの最大の強みである。

さらに、アナログレコードは、音楽の「歴史」や「文化」を伝える役割も果たしている。古いレコードには、当時の音楽シーンや社会情勢が反映されており、聴くことでその時代の空気を感じることができる。これは、デジタル音源にはない、アナログレコードならではの価値である。

アナログレコードを聴くには、適切な再生機器が必要である。特に、ターンテーブルとヘッドユニットの組み合わせが、音の再現性を大きく左右する。高品質な再生機器を選ぶことで、アナログレコードの魅力を最大限に引き出すことができる。



また、アナログレコードの音質を向上させるには、適切なメンテナンスも重要である。レコードの汚れや傷は、音質に悪影響を及ぼすため、定期的なクリーニングと適切な保管方法を守る必要がある。これにより、長年かけて蓄積したアナログレコードのコレクションを、最高の状態で楽しむことができる。

最後に、アナログレコードを聴くことは、単なる音楽の消費ではなく、一種の「儀式」でもある。レコードを手に取り、ジャケットを開き、ターンテーブルにセットし、音楽が流れる瞬間は、心を通り抜けるような特別な体験をもたらす。これは、デジタル音源では味わえない、アナログレコードならではの魅力である。

アナログレコードの音質は、デジタル音源とは異なる。有機的な響きと、演奏のニュアンスが伝わる。特にジャズやロック、ソウルミュージックなど、ダイナミックレンジが広い音楽では、その違いが顕著に現れる。また、アナログレコードは、音の「空気感」や「空間感」を再現する能力に優れている。ステレオ効果も、デジタル音源よりも自然で、まるでライブ会場にいるような感覚が味わえる。これは、アナログレコードの最大の強みである。さらに、アナログレコードは、音楽の「歴史」や「文化」を伝える役割も果たしている。古いレコードには、当時の音楽シーンや社会情勢が反映されており、聴くことでその時代の空気を感じることができる。これは、デジタル音源にはない、アナログレコードならではの価値である。

アナログレコードを聴くには、適切な再生機器が必要である。特に、ターンテーブルとヘッドユニットの組み合わせが、音の再現性を大きく左右する。高品質な再生機器を選ぶことで、アナログレコードの魅力を最大限に引き出すことができる。また、アナログレコードの音質を向上させるには、適切なメンテナンスも重要である。レコードの汚れや傷は、音質に悪影響を及ぼすため、定期的なクリーニングと適切な保管方法を守る必要がある。これにより、長年かけて蓄積したアナログレコードのコレクションを、最高の状態で楽しむことができる。最後に、アナログレコードを聴くことは、単なる音楽の消費ではなく、一種の「儀式」でもある。レコードを手に取り、ジャケットを開き、ターンテーブルにセットし、音楽が流れる瞬間は、心を通り抜けるような特別な体験をもたらす。これは、デジタル音源では味わえない、アナログレコードならではの魅力である。



ティアック TN-570 ¥OPEN (実売 13万円程度)
特：ティアック ☎0570-000-701



試聴に使用したLP (ELSP、キングクリムゾン、MJG、ピンクフロイド、ジヤコニー、カール・ペーム指揮ベートーヴェン第7、ボリス)



その他リファレンス機器
IA: アキュフェーズ E-470、フォノEQ: アキュフェーズC-37、
ヘッドシェル: オーディオテクニカ MG10



イクリス
TD-712MK2
¥400,000/1台
特：イクリスTD
専業電 ☎0120-
02-7755

ナガオカ
 ナガオカは、日本メーカーらしく折り目正しい音が持ち味と感じ、その端正な音に非常に驚いた。特にMP-110は雍正かつ艶のある表現を大いに楽しませてくれた。このシャープで深い表現も、まさにMM系の特権といえるのではないだろうか。

メーカーの印象
 においては、上位機の方が好ましい印象だ。

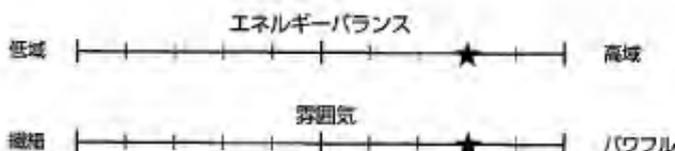
ナガオカ MP-100 ¥8,500

●型式：MM型 ●再生周波数：20～20,000Hz ●出力電圧：5.0mV ●針径：1.8～2.3g ●負荷抵抗：47kΩ ●負荷容量：100pF ●針先形状：0.8mil 円錐形合金ダイヤ ●カンチレバー：アルミニウム合金 ●質量：6.5g
 問：ナガオカ ☎0237-42-1135



非常にきっぱりとした、折り目正しい音

全体的に明瞭で、シャープな音が楽しめるカートリッジだ。音色にも強い癖がなく、全帯域の音がバランスよく揃って前に出てくる。それぞれの楽器の音がクッキリと鮮明に描き出されるが、ソースに含まれる強いエネルギーもいなく統制力をもっており、どんなソースでも破綻なくしっかりと音を拾い上げる。鮮明感がありつつも、音は艶やかで潤いがある。楽器の倍音がしっかりと聴き取れる、非常にきっぱりとした、折り目正しい音だ。



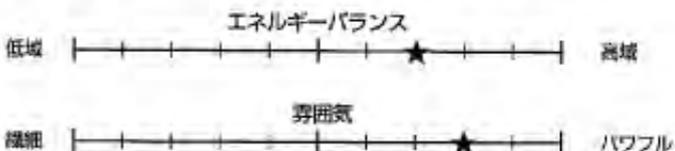
ナガオカ MP-110 ¥12,000

●型式：MM型 ●再生周波数：20～20,000Hz ●出力電圧：5.0mV ●針径：1.5～2.0g ●負荷抵抗：47kΩ ●負荷容量：100pF ●針先形状：0.4×0.7mil 楕円形合金ダイヤ ●カンチレバー：アルミニウム合金 ●質量：6.5g
 問：ナガオカ ☎0237-42-1135



応答の正確さ、リアリティ溢れる音

MP-100 よりもさらに解像度が上がり、それぞれの音が見やすくなる。ギター演奏のストロークにブレがなく、非常にしっかりとした表現。応答の正確さを感じさせる、リアリティ溢れる音。ELPでは、ライブ収録的な大味な録音に、高級感やしなやかさが感じられるようになった。これまで野蛮なスネア連打のように聴こえていたドラムソノの、細やかなグリップワークが浮き出てきた。弦楽器も、艶が増し麗しい音となった。モニター的なのに平板にならない。



試聴を終えて

今回、2万円以下の現行MM型カートリッジを一齐試聴して改めて感じたのは、そのモデルでしか聴くことができない、音楽を楽しませる個性がしっかりあるということ。決して代替的な廉価版カートリッジということではなかった。

全体の音の傾向

今回試聴したモデルで感じて感じるのは、日本メーカーと海外メーカーでの音傾向の違いだ。前者は、オールマイティに対応できるバランスの良さが根本にあって、その上で個性があると感じた。対する海外メーカーでは、バランスよりもまず個性が先に立っているといえはよいのだろうか。さらに両者に共通するのが、上位機になるほどバランス型になるとともに、良い意味でも悪い意味でも、ある種の「雑味感」が減っていくということ。これは試聴環境やソースにも大きく影響を受けるであろうが、今回の環境では、個人的には、雑味がある方が個性や面白みがあると感じることが多かったように思う。ただ、同シリーズの近似モデル間

